

実践報告

“泉州 RUSH” プロジェクト報告・Ⅲ

——大阪観光大学学生による地元地域活性化に向けた取り組み——

A Report on ‘SENSHU RUSH’ Project –Ⅲ–

——An approach to revitalize *Senshu* Area made by the students of Osaka University of Tourism——

橋 本 佳 恵*

HASHIMOTO Yoshie

Osaka University of Tourism is located in *Senshu*, the southern area of Osaka prefecture. In the summer of 2008, some of the university students started a project named “*SENSHU RUSH*”, and they tried to revitalize the area from their perspective of tourism. First of all, as a regular curriculum, they opened a new lecture course about *Senshu* area. The course, with lectures by the faculty members specializing in tourism, local administrators and professionals in the industry, was open also to the public. On the next step, in order to make an appeal about the charms of the area, they planned and carried out excursion programs visiting some local sights. They also provided some events held there. This report shows what the students have achieved and how much they are contributing to the promotion of the area through the *RUSH* project.

キーワード：泉州 RUSH プロジェクト (The *SENSHU RUSH* Project), 泉州地域活性化 (revitalization of *Senshu* area in Osaka prefecture), 学生による地域活性化貢献 (students’ contribution of the regional vitalization), 協働事業 (collaborative project)

1. “泉州 RUSH” プロジェクト活動概要

本論は、大阪観光大学学生有志による“泉州 RUSH”プロジェクト活動報告-そのⅢ-である。前報告-そのⅡ-（「大阪観光大学紀要」第12号）後から本稿執筆までの概ね2012年冬期から2013年秋期までの活動概要を記す。

今期間の活動の中心は、熊取町との協働事業である。熊取町とその隣接地域を目的地とする着地型企画旅行「味わい泉州-熊取旬の旅-」、および、交流イベント「旬の熊取を五感で楽しもう！」を実施した。前者は、主として大阪市内や北摂地域など泉州以外の地域の方がたに「熊取町を始めとする泉州地域の魅力を知り味わ

ていただく’ことを目的として企画した日帰りバスツアーであり、2011年度から3年間継続して実施した。後者は、地域住民を対象とする町内交流イベントで、2012年度から2年間実施した。（詳細は第2章）

また、熊取町・泉佐野市と本学の連携で、「泉州観光学講座」を開講した。この講座は、本学教員、地域行政や産業関係者らが講師を務めるオムニバス形式の講義であり、一般にも公開された。2009年度から継続されており、学生と地域住民が泉州地域についてともに学ぶ場となっている。（詳細は第3章）

その他、泉州産品の情報発信と地場産品を使ったオリジナルレシピの開発を目指し‘食’プロジェクトを展開した。町の生涯学習や農業祭への参加、泉州の老舗酒造との商品開発、ボランティアグループと連携した環境保

*大阪観光大学観光学部

全活動などにも取り組んだ。

2012年1月には、「第7回大阪モーターショー」にブース出展の機会を得、ドライブ旅行にお勧めの観光スポットの紹介や各種資料の配布、RUSHプロジェクト活動発表を行った。本学明光祭においても、毎年、活動報告を行っている。(詳細は第4章)

2. 熊取町との協働事業

(1) 熊取町住民提案事業への参画

熊取町では、2010年に「熊取町協働憲章」が策定され、地域住民と行政との協働による町づくりが推進されている。泉州RUSHプロジェクトでは「観光交流を通じた地域振興」をテーマに事業提案を行い、採択され、役場住民部にぎわい創造課とともに事業を進めてきた。

2012・13年度の協働事業について、以下に述べる。11年度の内容については「泉州RUSHプロジェクト報告・Ⅱ」を参照されたい。

(2) 着地型企画旅行「味わい泉州－熊取町の旅－」の実施

「泉州地域を訪れたことのない方がたに泉州の良さや魅力を知ってほしい」という思いから着地型企画旅行の構想が生まれ、「味わい泉州－熊取町の旅－」として実施された。企画のキーワードは「泉州ならではの伝統体験」と「泉州産の地場産品を楽しんでいただく」ことであり、泉州の夏を代表する「水なす」畑の見学や浅漬けの試食、伝統の染め物体験、その他町内の見所や産品を知り味わっていただく日帰りバスツアーである。

「泉州観光学講座」(後述)を通して地域について学びながら、前年度のプログラムに毎年新たな内容を加え、3年間実施してきた。泉州域外からの集客が目的であるので、広報は大阪市内や北摂地域を中心に行い、当日の集合・解散は大阪市内南部の天王寺界限とした。大まかな行程は、天王寺→熊取町長池オアシス→水なす農家の見学と浅漬け試食→JA大阪泉州→昼食→煉瓦館・中家住宅見学と伝統産業体験→オリジナルスイーツ試食とティータイム→泉佐野漁協→天王寺である。

最初の目的地「長池オアシス」(大阪ミュージアム構想みどり・自然部門ベストセレクション)では、管理会の皆さんの案内でオアシスと季節のハスの花を鑑賞いただくとともに、「ハスの実入り善哉」やハスの茎を通して味わう「ハス酒」、ほのかにハスの香りがついた「ハス茶」を味わっていただいた。その後、野菜出荷協議会

水なす部会長さんの水なす畑の見学と浅漬けの試食。JA大阪泉州直売所「こーたりーな」で地域の農産品を紹介し、町内のレストランで地場産品を取り入れたオリジナルランチを楽しんでいただいた。

午後は、かつての綿布工場を再建し現在は地域の交流センターとなっている「煉瓦館」(経済産業省近代化産業遺産)と、隣接する「中家住宅」(国指定重要文化財)の見学、並行して、藍染め(12・13年度)・水なす浅漬け(12年度)・ハスの実クラフト(13年度)体験をしていただいた。藍染めについては、12年度は全員でハンカチを染めたが、リピーターがいらしたため、13年度はハンカチまたはミニスカートからいずれかを選び染めていただいた。見学・体験の後は、中家住宅でRUSHオリジナルの冷菓「水なすのコンポート」を試食しながら休憩を取り、泉佐野漁協に立ち寄った後、大阪市内で解散した。

煉瓦館到着時には、町長が町のマスコットキャラクターである「ジャンプ君」・「メジーナ」とともに出迎えて下さり、煉瓦館を背景に急遽記念撮影となった。

誘導や案内、バス車内でのガイドはRUSHメンバーが行った。役場にぎわい創造課協働観光グループの池内さんと箕原さんがそれぞれツアーに同行、住民部職員の皆さんが各所で様々なサポートをして下さった。煉瓦館や中家住宅の説明は町の学芸員の方が、藍染め体験はわたっ子クラブ、ハスの実クラフトは長池オアシス管理会、浅漬け体験は婦人会の皆さんが、それぞれ講師を務めて下さった。

また、企画旅行として一般募集ツアーを催行するにあたり、本学卒業生の青木美佳さんが勤める旅行会社に窓口をお願いした。青木さんは、当日、旅行社の立場でバスに同乗、学生では行き届かない細かな部分で参加者への対応をして下さった。

企画旅行の実施にあたっては、集客が最も困難な業務であった。当初ポスター掲示やチラシ配布で苦戦していたが、毎日新聞が告知記事を掲載下さるなどで、当日は定員一杯での出発となった。

参加の皆さんへのアンケートによれば、見学・体験・食事・学生の案内など全般通して泉州を満喫していただけたようであった。

(3) 地域交流イベント「旬の熊取を五感で味わおう！」の実施

2012年度からは、町の住民を対象とする交流イベントが新たに加えられた。協働事業採択に先立つプレゼン

テーション審査時に、審査委員のおひとりから「町内向けのイベントも実施してはどうか」とのアドバイスをいただいたのがきっかけである。町住民同士の交流促進と町の魅力再発見を目指し実施した。

12年度は2回、翌13年度は1回、いずれも6月中の土曜日の半日イベントとして実施した。駅下にぎわい館(12年度)・交流センター煉瓦館(13年度)に集いいただき、メンバーの誘導・案内で町内の見学と産業体験、地元の食材を使ったRUSH発案メニューを大学の学生食堂で試食いただく内容であった。

わたっ子クラブや長池オアシス管理会の皆さんには、この地域交流イベントでも大変お世話になった。地場産品によるオリジナルメニューの試食を兼ねた昼食は、'食'プロジェクトで指導いただいている泉州在住の調理師の山中弓子先生(全国学校調理師連合会会長)とそのお仲間の調理師の先生方にご協力いただいた。メニューや使用する食材、その仕入れ方法については、事前に打合せと試作を重ね当日に備えた。衛生面への対応から、当日の調理は調理師の皆さんにお願いし、RUSHメンバーは会場の装飾ならびに配膳とサービスを担当した。にぎわい創造課の職員の方が、本イベントにも同行下さった。

もっばらシニアの参加者を想定していたが、毎回、お子様連れのファミリー参加もあり、にぎやかなイベントとなった。参加者アンケートには、「改めて地元の魅力を発見した」、「楽しい体験をした」などの意見が寄せられた。

3. 地域連携「泉州観光学講座」の開講

熊取町および泉佐野市と本学の連携講座「泉州観光学講座」は、2009年度から毎年開講されている。地域の魅力を再発見し情報発信していくために地域について学びたいとの学生の要望から開講に至ったもので、学内向けには半期2単位の正規科目となっている。

講座は講義とフィールドワークからなり、講義は本学教員、熊取町・泉佐野市の観光行政担当者や地域の産官関係者らによるオムニバス形式で進められ、全15回中の一定回数が地域住民に公開されている。2012・13年度に一般に公開された内容は次表の通りである。フィールドワークは、学生が近隣の歴史的遺産や集客施設、地場産品などについて学ぶことを目的として学生たち自身によって企画され、講座期間中の土曜日を使って毎年2回程実施されている。例年、1年生や留学生の履修が多

く、フィールドワークへの参加も積極的である。一般の聴講者の方がたも、毎回、大変熱心に受講されている。

外部講師や一般の聴講者への対応、フィールドワークの企画運営などにRUSHが協力しているが、特にRUSHメンバーにとっては、企画旅行や交流イベントの実施に向けた事前学習の場ともなっている。

表-1 地域連携「泉州観光学講座」(2012年度)

日程	テーマ	講師
第1回 (5/10)	「熊取町の観光資源と取り組み①」	熊取町住民部 田中豊一
第2回 (5/17)	「熊取町の観光資源と取り組み②」	熊取町住民部にぎわい創造課 明松大介
第3回 (5/24)	「エコフィードを有効利用し6次産業化に取り組む(有)関紀産業」	有限会社関紀産業 川上幸男
第4回 (5/31)	「泉佐野市の観光資源と取り組み①」	泉佐野市商工労働観光課 西納久仁明
第5回 (6/7)	「泉佐野市の観光資源と取り組み②」	泉佐野市商工労働観光課 西納久仁明
第6回 (6/21)	「南泉州地域における観光ボランティアガイドの活動について」	南泉州観光ボランティア 連絡協議会 松田秀逸
第7回 (6/28)	「商業施設と地域社会」	りんくうプレジャータウン シークル 山口雅弘

表-2 地域連携「泉州観光学講座」(2013年度)

日程	テーマ	講師
第1回 (5/9)	「泉州観光学ことはじめ」	大阪観光大学教授 中尾清
第2回 (5/16)	泉州RUSHプロジェクト活動報告	泉州RUSHプロジェクト
第3回 (5/23)	「熊取町の観光資源と取り組み①」産業振興について	熊取町住民部にぎわい創造課 産業振興グループ 下中豊博
第4回 (5/30)	「熊取町の観光資源と取り組み②」協働・観光の取り組みについて	熊取町住民部にぎわい創造課 協働観光グループ 池内桃子 協働観光グループ 荻原大祐
第5回 (6/6)	「泉佐野市の観光資源と取り組み①」	泉佐野市生活産業部 まちの活性課 西納久仁明
第6回 (6/13)	「岬町の観光資源と取り組み」	岬町まちづくり戦略室 保井太郎
第7回 (6/20)	「中世の熊取・泉佐野」	大阪観光大学名誉教授 布引敏雄
第8回 (6/27)	「泉佐野市の観光資源と取り組み②」	泉佐野市生活産業部 まちの活性課 西納久仁明

4. その他の活動

(1) ‘食’ プロジェクトの展開

メンバーが最も注目している地域資源の一つが、地元の‘食’である。海と山に挟まれた泉州地域は食材が豊富であり、ツアーでも毎年取り上げている‘水なす’や近年認知が高まりつつある‘泉州だこ’、他にも、根菜や薬物野菜、海産物にも恵まれ、地場産品の直売所や漁協を覗くのは楽しい。府下のブランド豚‘犬なきポーク’や老舗酒造の地酒、伝統の和菓子や地場食材を使ったオリジナルパンを製造販売しているベーカリーやスイーツ店など、魅力的な食材に加え地域産品の活用に取り組む地元企業も多い。

RUSH プロジェクトでは、農場見学、野菜や果物の収穫体験、地場の食材を使った調理実習や学生視点でのレシピ開発などを行ってきた。季節の食材を使って試作したオリジナルメニューは交流イベントなどで披露、考案したレシピは「山中弓子先生&泉州 RUSH プロジェクトのコラボレーションレシピ」として、地元新聞‘ニュースせんなん’紙などに公開されている。

(2) 泉南山桜再生に向けた活動

泉南市高倉林道沿いには山桜が群生しており、桜の時期には多くの人びとの目を楽しませている。ところが、その山桜にツタなどが絡み付いて桜の木が倒されるなどの状況が発生、地元のシニアのボランティアチームが山桜再生のためにツタ刈りを続けておられる。RUSH プロジェクトもお誘いを受けて、4年前からツタの伐採や植林に協力している。ボランティアチームの皆さんにはいつもあたたかく迎えていただき、環境保全に貢献しながら自分たち自身も自然に触れリフレッシュすることのできる恒例行事となっている。

(3) 地元酒造との新商品開発

‘若者の日本酒離れで苦戦している日本酒を一緒に盛り上げてほしい’とお声掛けをいただき、2012年秋から、阪南市の老舗酒造と RUSH プロジェクトによる日本酒造りのコラボレーションが始まった。当初は日本酒や地元酒造に関する知識もなく互いにプラスになることがあればと気楽に引き受けたものの、実際に酒蔵の見学を行ったり酒造りの話を聞いたりするうちに、300年も続くまさに老舗の酒造りに素人がかかわって良いものか大いに心配になった。役にたてるとは到底考えられ

なかったが、若者の感性に期待下さっていることが分かり、もともと地場の‘食’を盛り立てたいと活動していたことから、それならば‘日本酒’も、ということで酒造とのコラボレーションによる商品開発を行っている。

杜氏から日本酒ができるまでの工程を教えていただき、洗米から酵母づくり、仕込み、絞りまで、日本酒ができるまでの全工程にかかわらせていただいた。その合間に、ショッピングモールの日本酒売り場などを視察し、若者が手に取るきっかけとなるような商品について検討を続けた。メンバーの多くは日本酒を飲んだ経験がほとんどなかったが、酒造りにかかわる方がたと親しく接し試飲の機会を得るなどのなかで、ラベルやネーミングの案を練った。次期シーズンの商品化を目指している。

(4) 町内各種イベントへの参加

2012・13年春には、熊取町の生涯学習“ゆうゆう大学”に参加した。住民グループ“風（ふう）”の皆さんが町とともに講座のテーマを選定、企画・運営まで担当されており、両年度は‘旅’がメインテーマであったことから RUSH にも参加依頼をいただいた。両年とも3回シリーズで、初回には橋本の講義と RUSH メンバーによる発表、2・3回目は地域の方がたと学生合同のグループワークが行われた。12年度のサブテーマは“旅を楽しもう！”、13年度は“青春18切符を使った旅企画”であった。青春18切符の旅企画では、企画した内容で実際に旅を実現したグループがあり、報告会が追加されることとなり、本学を会場に実施された。写真や資料を交えての報告会、引き続き学生食堂で懇親会を兼ねたティータイム、最後は RUSH メンバーが学内キャンパスツアーを行って終了した。大学図書館が一般に開放されていることを紹介したところ、早速利用登録をしていかれる方がいらした。

熊取町では、2011年度に「熊取産業ビジョン」が策定されており、それを受けて2012年12月1日、「第1回・熊取町農業祭」が開催された。産業ビジョン策定にあたっては RUSH から人見周一と岩本沙帆が学生委員として、農業祭の実施に向けては同じく中山佳那子が学生実行委員会メンバーとして、参画した。

農業祭当日は、野菜の品評会、地場産品の販売、雑煮などの地域の伝統的料理の再現、収穫体験ミニツアー、ステージイベント、地元業者のブース出展など盛り沢山の内容で、終日大盛況であった。学生実行委員として参加されていた和歌山大学の学生メンバーとともに‘収穫

体験ミニツアー’の運営補助、また、子どもや大人向けの啓発としてオリジナル‘紙芝居’を創作、実施した。紙芝居作成にあたっては、野菜農家の方からヒントをいただき、例えば子ども向けにはビニールハウスを破ったり中に入って遊んだりしないように、また、主婦の方向けには人体に害の無い稀釈された農薬使用についての理解を促す内容で、当日は多くの子どもさんやお母さん方が聞いて下さった。

会場内に設けられた大学ブースでは、地場野菜のスープを提供する模擬店と RUSH 活動に関する展示発表を行った。

(5) 情報発信・活動報告

2012年1月、南港のインテックス大阪を会場として、「第7回大阪モーターショー」が開催された。観光経済新聞社より「ドライブ de 観光」コーナーのスペース提供をいただき、「大阪観光大学泉州 RUSH プロジェクト」として出展した。ブースでは、泉州地域の観光資源、特にドライブでお勧めの観光スポットを紹介する手づくりマップと RUSH 活動に関する掲示を行った。また、南泉州各市町に提供いただいた観光マップやガイド冊子の配布を行った。ちょうど NHK 連続ドラマの舞台が岸和田であったこともあり、泉州地域に関心を持つ方がたがブースに立ち寄って下さった。当プロジェクト名に興味を持たれ声を掛けて下さる泉州地域の方も少なからずいらっしゃり、本学における地域連携の取り組みや RUSH 活動について説明した。

また、本学大学祭“明光祭”において、定期的に活動報告を行っている。カフェを兼ねた活動展示スペースは、毎年、プロジェクトにかかわっていた卒業生や講座やイベントでお世話になっている地域の方がたとの交流の場となっている。

5. ‘泉州 RUSH’ プロジェクト

—活動の成果および課題と今後の展開—

(1) 成果と課題

発足から5年、毎年、少しずつ新たな活動を積み上げてきた。RUSH プロジェクトの成果としては、講座の開設、企画旅行や地域イベントの開催、講演活動やメガイベントを通じた情報発信、加えて、泉南市の環境保全活動や阪南市の企業とのコラボレーションなどがある。新聞やローカルテレビへの露出の機会があり、地域のイベントにも何かと声をかけていただけるようになって

てきている。2012年度には、国土交通省近畿運輸局「近畿観光地域づくり事例集」にも選定いただいた。

熊取町との協働事業に参画できたことは、大変勉強になった。学生たちにとっては、それまでの机上のシュミレーションから、‘本物’のお客様を集客し自分たちの企画で案内する公費を使った事業という点で、気持ちの引き締まるそして大いにやりがいのある活動であった。行政関係者とのやり取り、対価を支払って参加下さる目の前のお客様がたへの責任、経験したことの無い進行プロセスなどプレッシャーは大きかったが、観光学部での日々の学びを実践する貴重な機会となった。普段接することの少ない異なる世代の方がたとの交流、企業や NPO との連携、社会人となって活躍する先輩たちとのネットワークなど、幅広い体験の機会を得た。高い目標に向かってのチャレンジ、また、限られた時間の中で複数のことを同時進行していく難しさなどを乗り越え無事事業を終了できたことは、今後の自信につながるものである。

RUSH にかかわる多くの方が学生との連携を喜んで下さり機会あるごとに声を掛けて下さることは常に励みとなり、寄せられる期待は次に向かうモチベーションとなった。観光領域ならではであろうが、活動を通して親しくなった地域の方がたが、卒業後に働く旅館を訪ねて下さったり自宅に招いて下さったことなど耳にするにおよび、プロジェクトを通し得ているものの大きさに驚く。彼ら彼女ら自身が広告塔となり将来地域にフィードバックされるものがあることを期待したい。

一方で、少なからず課題もある。プロジェクトを担うメンバーのマンパワー面での課題が常にあった。活動の場が広がるとともに多方面から連携のお誘いをいただくが、残念ながら十分に対応できているとは言いがたい。加えて、メンバーは3・4年を中心に構成されており毎年約半数が入れ変わることで、知識や経験の蓄積や継続性の点で困難が多い。活動が広範囲になり事前の勉強が追いついていないことをどのように克服していくかも、今後の課題である。

(2) 今後の展開

「地域連携講座」が開催された2009年4月は、熊取町役場住民部に“にぎわい創造課”が誕生した時でもある。自治体も観光や地域交流を通し、より積極的に地域活性化を推進し始めた時期であった。さらに、住民提案による協働事業制度が2011年度に開始され、町が観光や交流促進に動き始めた時に RUSH が連動できたこと

はまさにグッドタイミングであった。

学生たちは大学卒業とともに RUSH から卒業し、プロジェクトを担うメンバーは毎年入れ替わっていく。幸いメンバーが変化しながらも今までのところ活動はうまく引き継がれてきた。2008年夏に7期生たちが立ち上げた RUSH プロジェクトの現在の主力は11・12期生たちである。とは言え、半数のメンバーが年ごとに変わっていくため常にスタート地点に戻り復習しながら新たなことを積み上げて行く必要がある、その点は現役学生が担う活動の困難なところである。しかしながら、毎年リーダーもメンバーも入れ替わっていくことにより絶えず新鮮な感性やアイデアが持ち込まれていることもまた事実である。

中山佳那子、高本祥平、森山聖那、田中歩、田頭恵利、黄姫羅、グエン・ティ・チャン・トォ、黒田みさ、

小原衣里可らが中心となりエネルギーを集中してきた住民提案型協働事業は、同一テーマで最大3年というルールのもと今年度で終了となる。次年度以降は、かたちを変えた町との連携事業を展開予定である。現在までの経験を踏まえ、次の5年を目指しさらに活動を進めて行きたい。

【謝辞】

泉州 RUSH プロジェクトの活動にかかわって下さった全ての皆様に感謝いたします。

【付記】

熊取町住民提案協働事業実施にあたり熊取町から補助をいただいた。また、泉州 RUSH プロジェクト活動推進にあたり大阪観光大学共同研究助成をいただいた。

資料 1 協働事業「味わい泉州—熊取旬の旅—」ポスター 2012・2013 年度



デザイン
: K.Kuramitsu
作成 : RUSH

RUSH & 山中弓子氏
オリジナルレシピ
2013. ニュースせんなん



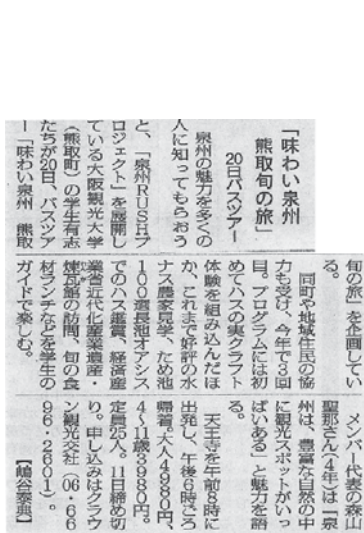
資料 2



2012.7.14. 観光経済新聞



2013.3.16. 産経新聞



2013.7.9. 毎日新聞



2013.6.29. ニュースせんなん



2013.7.27. 観光経済新聞



2012.12.8. ニュースせんなん

資料3

1. 協働事業「味わい泉州—熊取旬の旅—」(2012年度・2013年度)



2. 協働事業 交流イベント「旬の熊取を五感で楽しもう！」(2012年度・2013年度)



3. 地域連携「泉州観光学講座」講義・フィールドワーク(2012年度・2013年度)



4. 食プロジェクト <農場見学・収穫体験・レシピ開発>





5. 農業祭（2012年12月）



6. 生涯学習（2012年1月～2月・2013年2月～4月）



7. 泉南山桜再生（2012年2月、2013年2月）



8. 酒造との商品開発（2012年9月～2013年2月）



9. 情報発信 <モーターショー（2012年1月）・講演・活動報告>



10. その他 <見学・交流>

